

新型コロナウイルスに関する生活者調査【特別編】

コロナ禍1年を経た生活者の意識は

「コロナ禍が収束しても現在の生活を維持したい」が56.3%と過半数

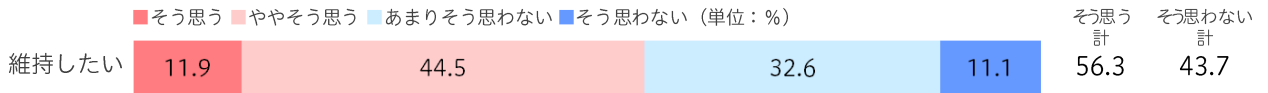
理由は20、30代では「時間の無駄削減や自己管理できるから」、60代では「コロナに限らず感染対策が必要」が上位

株式会社博報堂(本社-東京)のシンクタンク博報堂生活総合研究所は、2020年4月から毎月、「新型コロナウイルスに関する生活者調査」を実施しています。最新の4月調査では追加項目として、コロナ禍になって約1年経過したところで、生活者が「新たに気づいたこと」や「現在の生活スタイルの維持意向」などを聞きました。(調査は4月1～5日、対象は首都圏・名古屋圏・阪神圏の20～69歳の男女1,500名。調査概要は4ページ参照)。

現在の生活スタイルの維持意向とその理由

「現在の生活スタイルを維持したいか(新型コロナウイルスへの感染懸念がなくなった前提で)」と聞いたところ、「そう思う」計が56.3%と半数を超えました。回答理由(自由回答の集計)では、「時間の無駄削減や自己管理できるから」とのメリットを挙げる声が多く、「コロナに限らず感染が不安で対策が必要だから」を上回る結果になっています。年代別で理由が異なっており、20代、30代では「時間の無駄削減や自己管理ができるから」「快適/健康的なリズムで生活できるから」など生活の快適さを挙げる人が多く、60代では「コロナに限らず感染が不安で対策が必要だから」が高くなっています(詳細2ページ参照)。

■現在の生活スタイルの維持意向(コロナ感染懸念がなくなった前提で)



■維持したい理由(上記の「そう思う」「ややそう思う」人のみに質問、自由回答を集計)

(単位: %)	全体 (845)	性別		年代別						全体との差が ■+5pt以上 ■+10pt以上 ■-5pt以下 ■-10pt以下
		男性 (410)	女性 (435)	20代 (135)	30代 (166)	40代 (226)	50代 (162)	60代 (156)		
時間の無駄削減や自己管理ができるから	30.7	29.0	32.2	40.7	41.0	27.0	27.8	19.2		
コロナに限らず感染が不安で対策が必要だから	24.5	15.4	33.1	18.5	22.3	26.1	22.8	31.4		
快適/健康的なリズムで生活できるから	12.2	12.0	12.4	18.5	13.3	11.5	8.6	10.3		

※調査では小数第2位まで集計していますが、本稿は小数第1位まで(小数第2位を四捨五入)を表示しているため、合計値は見た目の数値と異なる場合があります。

コロナ禍生活1年で「新たに気づいたこと」

コロナ禍生活になってから1年で新たに気づいたことについて17項目を提示したところ、1位「自分も社会全体も衛生意識が高まり、風邪や病気にかかりにくくなった」(66.1%)、2位「家族と過ごすことが楽しくなった」(57.9%)、3位「人と対面で会うときは、その時間を大切にしようになった」「自分にとって大切なものを見極める機会になった」(共に57.1%)、5位「自由な時間を、自分の成長のために使いたいと思うようになった」(56.6%)となりました。これまで「当たり前」だと考えていたものごとの価値を見直したり、自分にとっての優先順位を考え直す、いわば「じぶんリセット」の機会になっているようです。

提示した17項目のうち10項目が50%以上となり、「人付き合いのストレスが減った」「家で過ごすことが楽しくなった」「生活費は、もっと節約できることを実感」など、生活の在り方を考え直す気づきは多岐にわたっています(属性別など詳細は3ページ参照)。

1位	自分も社会全体も衛生意識が高まり、風邪や病気にかかりにくくなった	66.1	6位	家族の気持ちのケアに気をつかうようになった	54.5
2位	家族と過ごすことが楽しくなった	57.9	7位	人付き合いのストレスが減った	54.2
3位	人と対面で会うときは、その時間を大切にしようになった	57.1	8位	家で過ごすことが楽しくなった	52.6
3位	自分にとって大切なものを見極める機会になった	57.1	9位	感染対策をする日常に慣れて、不自由さを感じなくなった	50.9
5位	自由な時間を、自分の成長のために使いたいと思うようになった	56.6	10位	生活費は、もっと節約できることを実感するようになった	50.7
			11位	オンラインでの買物や診療など、オンライン上でできることが増えて、便利になった	48.1
			12位	以前より健康的な生活を送れるようになった	47.5
			13位	街や電車が混雑しておらず、快適になった	45.3
			14位	テレワークやオンライン授業を経験して、必ずしも会社や学校へ行く必要はないと感じた	38.7
			15位	講演、授業やイベントなどは、オンラインで時間や場所に縛られず参加できるようになった	36.1
			16位	テレワークを経験して、必ずしも都会に住まなくてもよいと感じた	33.0
			17位	通勤・通学時間などが減って、自由に使える時間が増えた	32.1

※「あてはまる」「ややあてはまる」の計(単位: %)

現在の生活スタイルの好ましき／維持意向とその理由 【性・年代・エリア別】

現在の生活スタイルの好ましき(コロナ禍前と比べて) - 「自分にとって好ましい」が46.7%で半数近く。若い層ほど高い

「現在の生活スタイルの好ましき」を3つの視点(自分/家族/社会)で聴くと、いずれも「そう思う」計は半数を下回ったものの、「自分にとって好ましい」は46.7%、「家族にとって」37.7%、「社会にとって」34.5%を大きく上回りました。家族や社会に好ましいとはいえませんが、自分にとってはよい面があると評価しているようです。「自分にとって好ましい」は20代、30代など若い層ほど評価が高くなっています。

現在の生活スタイルの維持意向(コロナ感染懸念がなくなった前提で) - 維持したい人が計56.3%と過半数

性別では差はそれほど大きくありません。年代別では50代を除いた年代で、半数以上が維持したいという意識になっています。

維持したい理由(維持したい人のみ) - 「時間の無駄削減や自己管理ができる」が「コロナに限らず感染が不安で対策が必要」を上回る

性別では、女性では「コロナに限らず感染が不安で対策が必要だから」が高い結果。年代別では20代、30代で「時間の無駄削減や自己管理ができるから」「快適/健康的なリズムで生活できるから」など、生活の快適さを挙げる人が多く、60代では「コロナに限らず感染が不安で対策が必要だから」が高くなっています。またエリア別では、首都圏で「時間の無駄削減や自己管理ができるから」が高くなっています。

維持したくない理由(維持したくない人のみ) - 「不自由やストレスで楽しくない」「自由に外で活動したい」「人と交流や会食がしたい」が上位

どの属性別でもこの3つの理由が上位です。現在の生活スタイルの維持意向が低かった50代も同様の傾向です。なお性別では、女性で「自由に外で活動したい」「人と交流や会食がしたい」など、人との交流を含めての活動欲求が男性より高くなっています。

■現在の生活スタイルの好ましき(コロナ禍前と比べて)

全体との差が ■ +5pt以上 ■ +10pt以上 ■ -5pt以下 ■ -10pt以下
※1「そう思う」「ややそう思う」の計 (単位: %)

	全体 (1500)	性別		年代別					エリア別		
		男性 (757)	女性 (743)	20代 (240)	30代 (282)	40代 (370)	50代 (333)	60代 (275)	首都 40km圏 (500)	名古屋 40km圏 (500)	阪神 30km圏 (500)
自分にとって好ましい	46.7	44.9	48.5	56.7	54.6	48.1	40.5	35.3	46.4	48.4	45.2
家族にとって好ましい	37.7	37.9	37.4	46.7	44.7	36.5	32.7	30.2	39.0	39.0	35.0
社会にとって好ましい	34.5	36.1	33.0	45.8	40.1	35.7	28.8	24.4	35.4	35.0	33.2

■現在の生活スタイルの維持意向(コロナ感染懸念がなくなった前提で)とその理由

※2 上段: 維持したいと「思う」「やや思う」の計
下段: 維持したいと「思わない」「あまり思わない」の計

現在の生活スタイル 維持意向	全体 (1500)	性別		年代別					エリア別		
		男性 (757)	女性 (743)	20代 (240)	30代 (282)	40代 (370)	50代 (333)	60代 (275)	首都 40km圏 (500)	名古屋 40km圏 (500)	阪神 30km圏 (500)
維持したい	56.3	54.2	58.5	56.3	58.9	61.1	48.6	56.7	57.4	57.6	54.0
維持したくない	43.7	45.8	41.5	43.8	41.1	38.9	51.4	43.3	42.6	42.4	46.0

維持したい理由 (維持したい人のみ、自由回答を集計)	全体 (845)	性別		年代別					エリア		
		男性 (410)	女性 (435)	20代 (135)	30代 (166)	40代 (226)	50代 (162)	60代 (156)	首都 40km圏 (287)	名古屋 40km圏 (288)	阪神 40km圏 (270)
時間の無駄削減や自己管理ができるから	30.7	29.0	32.2	40.7	41.0	27.0	27.8	19.2	40.4	26.7	24.4
コロナに限らず感染が不安で対策が必要だから	24.5	15.4	33.1	18.5	22.3	26.1	22.8	31.4	20.2	25.7	27.8
快適/健康的なリズムで生活できるから	12.2	12.0	12.4	18.5	13.3	11.5	8.6	10.3	12.9	11.1	12.6
生活がコロナ禍前と変わらず支障がないから	12.1	14.9	9.4	3.0	10.8	15.9	14.8	12.8	10.1	12.8	13.3
高いレベルの衛生環境を維持できるから	11.2	7.1	15.2	11.1	11.4	11.9	11.1	10.3	10.1	13.9	9.6
今の生活スタイルに慣れたから	2.2	2.4	2.1	3.0	2.4	1.3	1.2	3.8	2.4	2.4	1.9

維持したくない理由 (維持したくない人のみ、自由回答を集計)	全体 (655)	性別		年代別					エリア		
		男性 (347)	女性 (308)	20代 (105)	30代 (116)	40代 (144)	50代 (171)	60代 (119)	首都 40km圏 (213)	名古屋 40km圏 (212)	阪神 40km圏 (230)
不自由やストレスで楽しくないから	35.4	38.3	32.1	35.2	30.2	38.2	39.8	31.1	35.7	34.4	36.1
自由に外で活動したいから	32.8	23.6	43.2	28.6	39.7	30.6	29.2	37.8	35.2	32.1	31.3
人と交流や会食がしたいから	14.2	8.4	20.8	12.4	15.5	13.2	13.5	16.8	18.3	12.3	12.2
感染が不安で対策が必要だから	4.0	1.2	7.1	7.6	1.7	2.8	4.1	4.2	3.8	4.2	3.9
生活がコロナ禍前と変わらず支障がないから	2.1	1.7	2.6	1.0	1.7	3.5	2.3	1.7	1.4	1.9	3.0
生活を維持できないから	2.0	1.2	2.9	1.0	1.7	2.1	2.3	2.5	1.9	3.3	0.9

※調査では小数第2位まで集計していますが、本稿は小数第1位まで(小数第2位を四捨五入)を表示しているため、平均値が見た目の数値と異なる場合があります。

女性の方が多くの気づき — 対面の大切さ、自由な時間を自分の成長に使いたい、など多数

性別では、女性の方が17項目中13項目で高くなっています。男女差が大きいのは、「人と対面で会うときは、その時間を大切にしようになった」(男性48.5%、女性65.8%で17.3pt差)、「自由な時間を、自分の成長のために使いたいと思うようになった」(男性50.1%、女性63.3%で13.2pt差)など。一方、男性が高いのは「通勤・通学時間などが減って、自由に使える時間が増えた」(男性33.7%、女性30.4%で3.3pt差)などです。

若い年代で多くの気づき — オンラインの利便性や自由な時間の増加。“おうち時間”の楽しさも

年代別では、全般的に20代、30代の若い年代が高く、50代、60代の高年層で低い傾向です。全体と比べて20代が特に高いものは、「通勤・通学時間などが減って、自由に使える時間が増えた」(全体32.1%、20代47.9%で15.8pt差)、「テレワークやオンライン授業を経験して、必ずしも会社や学校へ行く必要はないと感じた」(全体38.7%、20代53.8%で15.1pt差)、「オンラインでの買物や診療など、オンライン上でできることが増えて、便利になった」(全体48.1%、20代62.9%で14.8pt差)、そして「家で過ごすことが楽しくなった」(全体52.6%、20代67.1%で14.5pt差)などと続いています。20代では、生活の中でのオンライン活用による利便性向上や、自由な時間が増えたことへの実感が非常に大きく、結果的に“おうち時間”の楽しさを味わった1年になったようです。

全体との差が ■ +5pt以上 ■ +10pt以上 ■ -5pt以下 ■ -10pt以下

※「あてはまる」「ややあてはまる」の計(単位: %)

	全体 (1500)	性別		年代別				
		男性 (757)	女性 (743)	20代 (240)	30代 (282)	40代 (370)	50代 (333)	60代 (275)
自分も社会全体も衛生意識が高まり、風邪や病気にかかりにくくなった	66.1	60.6	71.7	65.4	70.9	64.3	64.0	66.9
家族と過ごすことが楽しくなった	57.9	54.6	61.2	60.8	66.0	57.8	52.3	53.8
人と対面で会うときは、その時間を大切にしようになった	57.1	48.5	65.8	64.6	62.1	54.6	51.7	55.3
自分にとって大切なものを見極める機会になった	57.1	51.7	62.6	64.2	65.6	54.9	50.5	53.1
自由な時間を、自分の成長のために使いたいと思うようになった	56.6	50.1	63.3	65.0	58.9	55.9	51.7	53.8
家族の気持ちのケアに気をつかうようになった	54.5	51.1	58.0	52.1	58.9	57.3	51.1	52.7
人付き合いのストレスが減った	54.2	47.7	60.8	65.8	51.8	57.3	48.0	49.8
家で過ごすことが楽しくなった	52.6	46.8	58.5	67.1	56.4	50.8	48.0	44.0
感染対策をする日常に慣れて、不自由さを感じなくなった	50.9	46.4	55.6	60.4	55.0	49.5	43.8	49.1
生活費は、もっと節約できることを実感するようになった	50.7	46.2	55.2	58.8	58.2	51.1	44.1	43.3
オンラインでの買物や診療など、オンライン上でできることが増えて、便利になった	48.1	43.9	52.4	62.9	52.5	48.4	40.8	38.9
以前より健康的な生活を送れるようになった	47.5	43.7	51.4	53.8	55.3	43.5	41.4	46.9
街や電車などが混雑しておらず、快適になった	45.3	45.8	44.7	53.8	48.2	42.4	43.8	40.4
テレワークやオンライン授業を経験して、必ずしも会社や学校へ行く必要はないと感じた	38.7	39.4	38.1	53.8	45.4	41.4	31.8	23.6
講演、授業やイベントなどは、オンラインで時間や場所に縛られず参加できるようになった	36.1	35.3	36.9	48.8	41.1	39.5	30.9	21.5
テレワークを経験して、必ずしも都会に住まなくてもよいと感じた	33.0	33.9	32.0	46.7	39.4	33.5	24.6	24.0
通勤・通学時間などが減って、自由に使える時間が増えた	32.1	33.7	30.4	47.9	36.2	28.9	27.6	23.6

※調査では小数第2位まで集計していますが、本稿は小数第1位まで(小数第2位を四捨五入)を表示しているため、平均値が見た目の数値と異なる場合があります。

調査概要

質問項目(質問文)

コロナ禍生活1年の「新たに気づいたこと」

新型コロナウイルス発生から約1年が経ちますが、
コロナ禍の生活の中で、あなたが新たに気づいたことや再発見したことは何ですか。
次にあげるそのような意見について、あなたご自身にあてはまるものをひとつずつお答えください。
(単一回答：そう思う/ややそう思う/あまりそう思わない/そう思わない・自分にはあてはまらない)

現在の生活スタイルの好ましさ (コロナ禍前と比べて)

コロナ感染拡大以前と比べて、現在の生活スタイルの方が好ましい(生活しやすい/暮らしやすい)という意見がありますが、
あなたはどのようにお考えでしょうか。
「自分」にとって好ましい/「家族」にとって好ましい/「社会」にとって好ましい
のそれぞれについて、あてはまるものをひとつずつお答えください。
(単一回答：そう思う/ややそう思う/あまりそう思わない/そう思わない)

現在の生活スタイルの維持意向 (コロナ感染懸念がなくなった前提下)

今後、新型コロナウイルス感染への懸念がなくなったとしても、あなたは今の生活スタイルを維持したいと思いますか。
あてはまるものをひとつお答えください。
(単一回答：そう思う/ややそう思う/あまりそう思わない/そう思わない)
また、あなたがそのように思われる理由をお答えください。(自由回答)

調査地域	①首都40km圏(東京都・神奈川県・千葉県・埼玉県・茨城県) ②名古屋40km圏(愛知県・三重県・岐阜県) ③阪神30km圏(大阪府・京都府・兵庫県・奈良県)
調査対象者	20～69歳の男女
対象者割付	調査地域①～③各500人を各地域の人口構成比(性年代)に合わせ割付
調査人数	合計1,500人 (単位：人)

	20代	30代	40代	50代	60代	合計
男性	122	143	187	169	136	757
女性	118	139	183	164	139	743
合計	240	282	370	333	275	1,500

調査方法	インターネット調査
調査時期	2021年4月1日(木)～5日(月)
企画分析	博報堂生活総合研究所
実施集計	株式会社 H.M.マーケティングリサーチ

(参考)昨年4月から今回調査直近までの社会の主な動き

<2020年>

4月	7都道府県で「緊急事態宣言」が発令(5/6まで) 緊急事態宣言を全国に拡大
5月	39県で緊急事態宣言が解除 大阪・兵庫・京都で緊急事態宣言が解除 1都3県含む47都道府県すべてで解除
6月	東京都で警戒情報「東京アラート」が発動
9月	東京でGoToトラベルの予約開始
10月	GoToイートの予約開始
11月	GoToトラベルの一時停止を首相表明 (感染拡大地域への予約) 東京都や大阪府を含め10都道府県でGoToイートが中断
12月	東京都でGoToトラベルが一時中止 全国でGoToトラベルが一時中止

<2021年>

1月	1都3県で緊急事態宣言が再発令 緊急事態宣言を11都道府県に拡大
2月	3月7日まで緊急事態宣言の延長が決定
<直近の詳細>	
3月 1日	大阪・兵庫・京都で緊急事態宣言が解除
3月 5日	東京での医療従事者へのワクチン先行接種開始
3月 7日	1都3県で緊急事態宣言が2週間延長(3/21まで)、 飲食店への時短要請を継続決定
3月20日	東京五輪・パラ、海外客の受け入れを断念
3月21日	1都3県で緊急事態宣言が解除
3月24日	1都3県で飲食店への時短要請を4/21まで継続決定
4月 1日	大阪・兵庫・宮城の3府県の6市で まん延防止等重点措置を適用と発表(4/5～5/5)

<備考>

過去のニュースリリースは、以下のURLからご覧いただけます。<https://seikatsusoken.jp/newsrelease>

問い合わせ先 博報堂生活総合研究所(佐香・内瀆) 03-6441-6450 seikatsusoken.info@hakuhoodo.co.jp
株式会社博報堂 広報室(玉・大野) 03-6441-6161 koho.mail@hakuhoodo.co.jp